

報告6 デンマーク

働く場＋「刑務所」としてのケアファーム

オーフス郊外にあるケア・ファームのスナスタープ・ベスタボー（Snastrup Vestergaard）も驚きの施設だ。知的障害者、ADHD の人たちの「グループホームと農場」ということで訪問させてもらったのだが。施設の概要はラースさんが話してくれた。

- ・農家をオーフス市が買い上げ、大人の知的障害者の働く場とした。

- ・森の木を買ってきて薪にする。3 軒に 1 軒は暖炉がある地域なので収入になる。

- ・庭の草刈りや手入れも請け負う。

- ・8 時に、通う人も住む人も集まり食事を始め、その日の予定・計画を決める。利用者は希望を言うことができる。スタッフはそれを調整する。

10 時：コーヒー／12 時：食事／15 時：終了

- ・障害者年金から税金を払い、ここの利用料を払うと少し残る。それに、仕事をする、1000 クローネ／月までは非課税で、それ以上は年金からマイナスされる。

- ・現在、住む人 11 名、通う人 10 名、補助付きの仕事している人 2 名でスタッフは 25 名。10 名の臨時職員がいる。支援住宅があり、夜勤も必要なのでスタッフは多めだ。「問題のある人が多いので、スタッフも多いのだけれど」



昼食をいただいた後、施設長のアンネ・メッテ・ハーグ（Ms Anne Mette Haag）が加わった。この施設の役割の全貌が語られはじめた。

4 名は刑事犯です。知的障害のあるこの人たちは、普通の刑務所にはあわないので、それをケアすることのできるこの施設に来ています。

「判決」は「5 年間の服役」です。「監視付き」の人もいます。それには 1 人が必ずついていかねばならないし、彼の動きはすべて記録されます。記録



対象者は 4 名います。でも、刑事犯たちは、この施設で収容できないとなると、ローラン島の特別刑務所（閉鎖）に送られることになるので、さすがにそれは嫌なようで、ここでちゃんとやっています。

デンマークでは知的障害者も法の裁きの対象となります。犯罪の原因が精神病となれば、精神障害者の刑務所か一般の刑務所に。知的障害の場合ならば、「刑務所」としてこうした施設に収監される。

4 名の内、2 名は放火犯。1 名は殺人犯。1 名はピストル強奪と小さな犯罪 200 件。そのため、昼間は 1 人が監視役、夜は監視役は 2 名体制です。でも、いまは菓をしっかり飲んでいます。

新しい住宅を建設していますが、判決の下った人 6 名までが暮らせる住宅です。現場はこうした施設を必要としています。知的障害者の犯罪数は増えてきています。悪い組織やグループの手先に使われやすいからです。まだ、こうしたとりくみはデンマークでははじまったばかりなので、全国施設長会議で状況報告がされています。

警察とタイアップしています。犯罪者の外出には 2 名の警官が付くことになっていますが、それはこちらのスタッフがやりますということで、その分の予算をもらっています。

犯罪者の障害者を受け入れている施設は他にもあるが全国で 10 ほど。ここでは、いままで一人も逃げ出していない。犯罪は起こしていません。

「市も財政難で、いろんなことをやるには財政が必要です。でも、警察も人員削減で、なかなか外に人が出れない。ならば、警察の弱いところに、この施設が協力することで、きちんと予算を持ってくる」。デンマークの「塀」は、開放的な入所施設のなかで”透明”化されている。（藺部英夫）